

公園・憩いの森・花壇を区民が もっと自由に安全に使えるようにしよう！

課題 ・利用されていない公園や憩いの森が多い！
・お金をかけているのに機能していなくてもったいない！
目標 ・地域に1つ！計画～整備～管理運営まで区民が楽しみ見守る『みんなの庭』
のような公園・森・花壇をつくる（「権利」と「責任・義務」の両立）

提案1．区民が地域のみどりを調査&ニーズを把握！地域に1つ！「みんなの庭」 ～（仮称）公園プチリノベーション公募制度！区民参加型の公園づくり！～

地域の方々と区で地域にある既存の公園や憩いの森を調べて、各場所が果たしている役割を整理するとともに、地域のニーズを把握し、地域に必要なテーマの場所を話し合う場をつくる。具体的な利用方法や利用ルールも話し合い、今後の区民協働の管理運営につなげる。自分たちで計画から考え、整備・活用することにより、「みんなの庭」として愛着を持って管理運営され、地域で活発に利用される場所となる。まず、モデル地域でやってみて、その方法を検証して（PDCAサイクル）、他の地域へと広げていく。

例えば、リニューアルしたい公園を公募し、区民団体に手を挙げてもらい、公開審査をして、区民団体と区で地域のニーズに合った公園にリニューアルし、区民団体が楽しみながら見守り、区と協働しながら管理運営をしていく。

区民からのアイデア

地域の方に集まってもらい、地域の既存の公園を調べて、活かす！地域の区民のニーズを把握する！
地域に必要なテーマの公園を話し合う！ ・子どものやりたいことを代弁する大人、コーディネートする人が必要。 ・利用しやすく、人が集まる公園づくりを行う。 ・地域で各公園の果たすべき役割を整理する。

<生の声・課題> ・利用されていない公園や憩いの森が多い！利用価値が下がっている・・・。
・子どもに憩いの森に行くと言っている。
・管理費などのお金をかけているのに機能していなくてもったいない！
・子どもが公園でボール遊びをしていたら通報されて、怖くて公園に近寄らないようになってしまった。子どもが思いっきり遊べる公園がない！
・区内一律の利用・ルール・維持管理だから、利用されていない公園や憩いの森が多い！



提案2．区民が継続して公園の管理運営に携わっていただける仕組みをつくる！ ～ポイント制ボランティア制度による地域還元・地域活性化の仕組み！～

区民が公園等の管理運営に携わるときの一番の難しさは「継続性」である。そのため、年齢層等に合った興味のある関わり方を考えることが大切である。例えば、子育て世代は子どものボール遊びの見守り、年配の男性は施設の補修や中低木の剪定、女性は草花やキッチンハーブ等を植え、お手入れ後にはその恵みをいただく、学生はプレーリーダー等が考えられる。ボランティアはやりがいや楽しさがないと続かないので、地域の方がテーマを考え、つくった公園であれば、なおさら区民が出来ることを担っていくことが促進される。

また、ボランティアをするとポイントがもらえて、ポイントが貯まると公園等で育てたものや地元の野菜、地元商店街の買い物券（地域通貨）等と交換できる仕組みをつくり、みどりを守り育てることで、地域還元・地域活性化にもつなげていく。

区民からのアイデア

・区民が公園の管理運営に参加すると、ポイントがもらえて、そのポイントが貯まると公園でつくった腐葉土や地元の野菜、ねりコレ等がもらえる！という地域還元の仕組みをつくる！
・親子や子どもが公園の手入れや花壇づくりができるようにし、自分たちが使う公園を大切にする意識をもつ。
・区民が公園の手入れやごみ拾い、除草などのボランティアをする日を定める。
・ボランティアと住民の連携づくり（今後荒れたみどりが増えるので、みどりを育てるつながりをつくる）

<生の声・課題> ・やりがいや楽しさがないと続かない！
・無償のボランティアでは、生活が苦しい若い世代や高齢者は続けることが難しい。

提案3．区民団体が協働しながら公園・憩いの森・花壇を管理運営できる仕組みをつくる！ ～みどりを楽しみながらつながる「みんなの庭クラブ」～

各地域に身近な自然として憩いの森・公園・花壇がある。その場所の自然環境や周辺環境等を調べて、地域の「みんなの庭」としてどのような場所にするのかという「コンセプト・目標像」や、どのように利用するのか、管理運営するのかという「基本方針」を話し合い、管理運営計画「育みプラン」を立てて、区と地域が協働しながら「みんなの庭」を活用・保全・育成していく。区民ができることを、できるときに行える活動を通して、ゆるやかなつながり、地域交流・コミュニティを育みながら、将来の練馬のみどりの保全を担っていく。

公の施設を区と区民の協働により管理運営するには、区民の主体的な活動へのやりがいや誇りが育まれる活動の支援（ソフトとハード支援）が必要である。区民は、生物調査、管理作業（中低木剪定、草花管理、腐葉土づくり等）、季節の地域交流イベント等を行い、主体的に活動を行うための基盤整備（水道、道具箱、腐葉土箱、掲示板、ベンチ等）や危険が伴う高木の剪定、技術を支援する専門家の派遣等は区が行う。また、公の場の管理運営なので、簡易な整備費、管理運営に必要な道具・材料費、印刷・通信費、実費程度の人件費等は区から支払い、権利と責任を両立する。

区民からのアイデア

・区民や団体が公園や憩いの森をもっと自由に使えるようにする。もっと森やみどりを区民に活用させる。
・地域のローカルルールで地域の人々が楽しく公園を使うことで、責任感も出るし、自分たちで管理しよう！という気持ちが生まれる！
・各公園のコンセプトに合った管理運営を公園ごとに決めて行う。
・高松で行っている「森もりファンクラブ」の活動がよい！
・「住民自主管理公園・花壇」で出来ることを増やしていく。

<生の声・課題> ・雑草がボウボウ、クモの巣だらけ、木が大きくなりすぎて暗い・・・という公園がある一方で、掃除され過ぎて木の実が拾えない、季節外れに剪定して花が咲かない公園もある。
・区だけでは一律の管理しかできない！
・市民活動でもっと自由に緑地を使いたい！今は制約が多すぎる！住民と管理者、住民同士の理解と歩み寄りが必要！



提案4．公園の自由化！民間の力を活かした公民連携の公園マネジメント！ ～農園保育園、森のカフェ・マルシェ、フリマ、自然塾など練馬らしさをアピール～

公園の一部で区民団体やNPO法人、事業者等に事業運営や公園管理を任せて、カフェや保育園、自然塾等を運営することにより、その売上げの一部を公園の管理運営費に充てられるようにする。民間の運営ノウハウを活かすことで、公園の利用を促進し、公園を運用して、地域の課題を解決するとともに、地域で経済活動や雇用を生み出し、区民が地域で仕事として関わられるようにし、みどりも保全するしくみを提案する。

区民からのアイデア

農園保育園 ・ ・ 農地運用による保全 親たち就労・就農支援 農家の担い手育成 子どもが土とふれあう(親子で野菜づくり)、食育、みどりへの啓発 待機児童問題への対策 お金もまわる
森のカフェ、森のようちえん、自然塾、フリーマーケット(ファーマーズマーケット、マルシェ) など

<生の声・課題> ・生活が厳しくなるこれからの時代に、区民のボランティアだけでは限界がある！
・財源が厳しくなるこれからの時代に、区の委託費（予算）にも限界がある！

テーマ
民有地のみどり

お庭・屋敷森・農地など 民有地のみどりを、 地域の共有財産として育てて守っていきこう！

- 課題
- ・樹木の飛び出しや落ち葉、土埃への苦情がくる
 - ・高齢になり樹木の管理が難しい
 - ・相続税、固定資産税等の税の負担が大きく維持できない
- 目標
- ・大切な木、地域のシンボルになっている木や広々とした農地の存在を地域で共有し、『みんなの木・みんなの庭』として残していく！
 - みどりの多面的機能・効果の周知・共有・見える化

提案1 民有地のみどりに関わる制度の見直し

～区と区民で協議して制度を柔軟に使い切る！～

既存の民有地のみどりに対する制度を、現在の練馬区の状況に合わせて見直し、区民がより使いやすくする提案
現在、区では苗木の配付や緑化の助成(みどりの協定や生垣助成)など、「新たにみどりを増やす」ことに対する制度が充実しているが、緑被率の推移を見ると、創出されるみどりよりも滅失するみどりの方が多い。マンション・アパートなど、新たにみどりを植える土地を持たない区民も多いことから、地域のみどりを地域住民で保全することに対する助成の制度を充実させることが必要である。区が一律にお金を出すような制度ではなく、区民と協働しながら、長期にわたってみどりを保全・育成させていける制度を考える。

区民からのアイデア

- ・憩いの森を、夜間は閉じることはできないか？それなら屋敷森を憩いの森として保全することができる。
- ・保護樹木より小さいが、個人で剪定しきれない木に対して補助する制度ができないか？
- ・みどりがある場所を共有財産と考えて、税を免除・軽減できないか？

<生の声・課題> ・税金の負担を軽減するため、憩いの森にしては？と提案を受けたが、家の周りの屋敷森は、憩いの森にすると防犯が心配。
・大きい木を残したいが、個人では剪定は無理。業者に頼むと高額なお金がかかる。
・保護樹木・保護樹林にできるほど大きい木ではない。

提案2 消失するみどりを少しでも減らす方法をつくる！

～木を残して土地を売りたい人と、木のある土地が欲しい人をつなぐ仕組み～

税金の負担から、庭や屋敷森の土地をやむなく手放さなくてはならない人が多いことが、みどりの減少の大きな要因となっている。既存樹木を活かしたまま土地の売買ができれば、みどりの量が保たれるだけでなく、地域のみどりの記憶として残していくこともできる。

みどりを資産と捉え、経営的発想で考える。みどりのある土地を売りたい方、みどりのある空き家などの情報を集めてデータベース化し、土地を買いたい方や、樹木を活かした家づくりをしたいハウスメーカー、みどりのある土地を活かして活動したい団体、みどり豊かなカフェなどを経営したい企業などをつなぐ。また、土地を買った方には樹木を活かした家づくりが得意な建築家を紹介するなどの特典をつける。

土地を開発する際には、近年注目の集まっている「いきもの共生事業所(ABINC認証)」を取得した業者などを誘致することで、緑被率No.1だけでなく、練馬が「みどりと共生するまち」といったイメージをつけることができる。

区民からのアイデア

- ・木のある庭がほしい人と、木を残して土地を売りたい人をつなげられないか？

<生の声・課題> ・税金の負担が大きく、庭の土地を売るしかない・・・。更地にしないと土地としての価値がなくなると言われたが、できれば木を残してくれる人に売りたい。

提案3 ご近所のみどりについてみんなで話し合う場づくり

～ご近所版！みどりの区民会議(広場)！～

庭や屋敷森のオーナーとご近所の人々をつなぐ第三者的な立場の機関や、ご近所のみどりについて地域のみんで考える場づくりについての提案

民有地のみどりに対して、周囲の方の気持ちを伝える場がなく、不満が蓄積したり、愛着を持っていた木がなくなってしまったといったことも起こっている。アンケート等で意見を収集するほか、第三者が間に入り、地域のみどりの将来について考える機会や、みどりの良さを共有する機会があると良い。個人同士の問題から、地域の共通課題へと認識を転換させるきっかけとする。オープンガーデンなどを絡めることで興味を持ってくれる人も増えると考えられる。

区民からのアイデア

- ・窓口となる機関や、話し合いの場で第三者の立場の人がほしい。
- ・周辺1km程度の住民で話し合う場がほしい。
- ・季節ごとの観察会&お茶会 ・オープンガーデンを通じてお互いを知る、話すきっかけとする。
- ・困りごとの種になってしまう高木がまちにもたらず良さを、ご近所同士で共有したい(緑陰など)

<生の声・課題> ・オーナーの想いと、周囲の住民の想いとが、お互いに伝えられない。(大変に感じていること。木に愛着を持っていることなど)
・個人の持ち物なので、区が間に立って管理方法などについて話すことができない。(町内会は仕事が多く、請け負いきれない)
・地域でみどりを残したいという想いは共通のはず。困っている人がいるならば、オーナーとの方が一対一で話すのではなく、他の方々も含めた地域で語り合う場がほしい。

提案4 ご近所の人のみどりの管理を気軽に手伝える仕組みをつくる！

～みどりのお手伝いネットワークづくり「(仮称)木心仲間応援制度」～

オーナー目線で、「こんな仕組みがあったらボランティアを受け入れやすい」「こんなことなら手伝ってもらえそう」という内容をまとめ、ご近所の人を気軽に手伝える仕組みを提案

地域にあるみどりを守りたい、何か手伝えることがあれば手伝いたい、という想いを持っている区民は多い(=区民意識意向調査より)。しかし、憩いの森や公園などと違って、民有地のお庭や屋敷森はプライベートな空間であるため、手伝いの方法には様々な配慮が必要である。手伝いをする人とオーナーの双方が気持ち良く活動できるよう、取り決めておくべき項目や、気をつけたい項目を設定する。また、気軽に手伝ってもらいやすい仕組みも考える。

区民からのアイデア

- ・周辺1km程度の住民で何かお手伝いできることはないか？
- ・楽しみながら人と人がつながり、困っている人のためにもなるイベント
- ・ボランティアと地域住民で落ち葉掃き ・「区民ガーデン」のような庭
- ・大学生と地域の人たちが一緒に落ち葉掃き(コミュニケーションで活力アップ!)

<生の声・課題> ・近所の立派な木を守りたい想いはみんな同じ。何かお手伝いできることはないか？

テーマ
落ち葉・剪定枝の
有効活用・リサイクル

落ち葉や剪定枝を迷惑物ではなく 練馬の宝・資源としよう！

提案1 地域みんなで落ち葉にふれあい、集める仕組みづくり ～地域の木はみんなの木！落ち葉を通じた地域交流&みどりの保全～

ご近所から「落ち葉が迷惑だ！」と言われ、庭の木を伐らざるを得ない方が多い。かつての日本の暮らしでは、田畑の肥料となる落ち葉は大切な資源として重宝されてきたが、現代では生活との関わりが薄れ、新緑や紅葉を楽しむ風習はあるのに、落ち葉を風物詩として愛でる方は少なく、迷惑物と思う方が多い。都市で木を育てる大きな課題の1つである。そこで、誰でも気軽に落ち葉を集めて入れられるものを地域に設置して落ち葉を集めやすくするとともに、地域で落ち葉掃きをして焼き芋をつくって食べる等のイベントを行うことにより、地域の木はみんなの木として地域で大切にしている、見守っている、感謝しているということを所有者もご近所も感じられるようにして、みどりの保全へとつなげる。

区民からのアイデア

- ・誰が悪いとかではなく、それぞれで落ち葉掃きをする。
- ・地域に「落ち葉入れ(網目)」を置き、気軽に落ち葉掃きをして、自主的に落ち葉を入れられるようにする。
- ・区民、樹林所有者、造園業者等が誰でも落ち葉・剪定枝を直接リサイクルセンター(リサイクルプラント)や、清掃局へ持ち込めるようすれば、自分たちで樹木の手入れがしやすくなる。
- ・区や事業者、NPO法人等が落ち葉・剪定枝・枝葉材を回収してリサイクルセンターにまわせないか？
- ・活動団体と地域の方が一緒に落ち葉掃きをする(例：親子で落ち葉掃き 焼き芋づくり&焼き芋を味わう体験イベント「落ち葉まつり」等)

<生の声・課題> ・落ち葉の掃除が大変。毎日落ち葉掃きをしてもお隣から「もっと早く掃いて」と言われる・・・。
・落ち葉で嫌な思いをしている人がいると思うと、木を伐らざるを得なかった・・・。
・家の周りの落ち葉掃きを優先するため敷地内まで手が回らない。一方で、手伝ってくれる近所の方もいる。
・落ち葉を回収してもらえる1回の量が少なく、いつも家に置いている状態である。

提案2 若者による高齢者の庭の落ち葉掃き&雨樋の落ち葉取りの仕組みづくり ～(仮称)落ち葉スターズの出勤！雨樋や落ち葉の課題解決&多世代交流～

高齢になり、庭の木の落ち葉掃きや雨樋に詰まった落ち葉を取ることができず、木を伐るかどうか迷っている高齢者が増えてきている。そこで、練馬のみどりを地域全体で守るために、社会福祉や造園等を学んでいる学生やそれらのテーマで活動している団体・NPO法人が、高齢者の庭を訪れ、庭や雨樋の落ち葉を集めるとともに、高齢者は、お茶やお菓子、ごはんを用意して、一緒に食べながら昔の暮らしや地域の話をするという多世代交流活動の仕組みをつくる。学生は大学で社会貢献の単位がもらえる、団体には区から活動助成金が出る等の特典も必要である。雨樋の落ち葉集めはより大変なので、ポイントや助成金が高い等の工夫や、地域課題を解決するコミュニティビジネスへの展開も考えられる。

また、雨樋への落ち葉トラブルは高齢者に限らず、みどりに関する地域課題の大きな1つであるため、民有地のみどりを保全する支援制度として、落ち葉が詰まりにくい雨樋や落ち葉除けネット設置への区からの助成制度等も考える。

区民からのアイデア

- ・落ち葉に関わるトラブルを防ぎ、みどりを保全するため、落ち葉が詰まりにくい雨樋設置への助成を区が行う。
- ・雨樋の掃除のためのボランティアや補助金を出す。

<生の声・課題> ・雨樋の掃除が大変という声が多い。
・保護樹林(マツ)の落ち葉が周りの家の雨樋にも落ちて始末が大変。地域でも問題となっている。

- 課題 ・落ち葉掃きが大変。ご近所からは迷惑物扱いされる。] 木を伐った方が
・「落ち葉が雨樋に詰まる」とご近所から言われる。] いいのだろうか・・・
・落ち葉に対して良い印象や意識が高まるには？
- 目標 ・落ち葉や剪定枝が資源となり、樹木は“宝の山”“練馬の宝”と区民が思う。
・「紅葉の後の落ち葉もいいよね！」と区民が思えるようにする。

提案3 落ち葉は宝！落ち葉をゲット！落ち葉・剪定枝の有効活用・リサイクル作戦 ～落ち葉は腐葉土や野菜と交換！みどりと農のまち練馬のイメージUP～

落ち葉や剪定枝を有効活用やリサイクルすることによって、「落ち葉は宝！落ち葉がほしい！」と区民が思うような仕組みをつくる。これは、落ち葉が迷惑物ではなく宝になるようにすることで、落ち葉でのトラブルを減少させて、みどりが保全されることを目指している。例えば、区民や区民団体が庭や屋敷森、公園・憩いの森、街路樹、寺社等から落ち葉を集め、区と区民ボランティア、区民団体等の協働で腐葉土づくりを行う場所に持ち込み、持ち込んだ落ち葉の量に応じてポイントがもらえ、そのポイントと腐葉土や地場野菜、花苗等が交換できるようにする。

また、この仕組みを実現するには、落ち葉からつくった腐葉土の放射線物質の測定をして、農林水産省が定めた、肥料・土壌改良資材・培土中に含まれる暫定許容値より下回っていることを確認し、国及び都と協議を行い、腐葉土を活用する。

区民からのアイデア

<リサイクルの仕組み 地域コミュニティベース 経済ベース>

落ち葉をごみとして清掃業者に出すのではなく、区民団体が地域の人と共に回収し、地域の人と腐葉土をつくり、地域に無償で配布して地域還元することで地域住民に喜んでもらい、落ち葉やみどりにへの印象を良くする。区民、樹林所有者、造園業者等が落ち葉や剪定枝をリサイクルプラントへ持ち込み、kgいくらか payback をもらう。それを堆肥化・チップ化して販売し、庭や花壇、畑や家庭菜園等で使って、落ち葉を宝に変える。

<有効活用策>

- ・落ち葉・剪定枝・老木の有効活用・リサイクル(落ち葉 堆肥、腐葉土、焼き芋、野焼き等・剪定枝 チップ化、木材や燃料エネルギー化・老木 腐る前に伐採して材木として再利用)をするべき！
- ・石灰窒素を使った臭いの出ない腐葉土づくり等、農家のノウハウも活かして、区民で腐葉土づくりをしたい。
- ・団体が落ち葉をリサイクルした腐葉土を使って野菜をつくり、採れた野菜を地域の方々と一緒に料理して楽しみながら交流する。
- ・公園や憩いの森で、あえて落ち葉を集めてそのままにするふかふかゾーンをつくり、落ち葉をみんなで自主的に入れられるようにする。ふかふかの土をつくったり、雑草を生えにくくして草刈り作業を減らしたり、落ち葉ベッドやカブトムシを育てるベッドをつくる。

<生の声・課題> ・落ち葉を捨てるのは抵抗がある・・・。
・落ち葉に対して良い印象や、意識が高まるには？

提案4 みどりの区民会議で「落ち葉対策チーム」をつくろう！ ～区民協働で落ち葉を活かす仕組みを考え、早く行動に移そう！～

「みどりの風吹くまち 練馬-」としては、落ち葉が原因で樹木を伐採しなければならなくなっている方が多いという現状に目をつむっていることは出来ない。区民、専門家、行政が集結した「落ち葉対策チーム」を早急に立ち上げ、落ち葉が迷惑物ではなく、練馬の宝となり、さらには土・腐葉土などのみどりを育てて守っていく大切な資源となるように、その仕組みを考え、行動に移していく必要がある。

区民からのアイデア

- ・区民会議に落ち葉チームを設置し、活かす方法をみんなで考えよう！
- ・落ち葉対策チームを立ち上げ、具体的な行動に移す。とにかく早く行動に移すことが大事。

<生の声・課題> ・樹林所有者、周囲の方、両方の想いをどうすればいいか・・・それぞれ苦しい。
行政だけでは解決できない。高齢で落ち葉掃きが出来ない人も増えてきているし・・・。
・隣の落ち葉は風物詩だと思っていた。パッサリ切られてさびしく思う。

テーマ
剪定・管理方法

剪定や具体的な維持管理方法をより良くし、質の高いみどりにしよう！

- 課題 ・強剪定すると苦情がくる...する方も心苦しい
 ・季節外れの剪定で花が咲かない
 ・強剪定すると/しないと困ることは？
 目標 ・公園、道路ごとのローカルルールに基づいた、管理、運営への参加

植えるときに

提案1 . 公園・道路の樹木を選ぶ際のガイドラインを協働で作る
 ~これからの公園や道路に植えるのにぴったりな樹木選びのコツを区と区民で一緒に考え、冊子にまとめよう！~

既存の公園や街路樹において、樹間や樹種が適切でない場合は、伐採せざるを得なくなるものもある。今後は、公園や道路を新設・改修する際に、その環境や時代に合った樹種を適切に植える必要がある。適切な樹種や管理方法などを示した全区的なガイドラインを、公園・道路それぞれで区民の声を聞きながら作成し、わかりやすい冊子にまとめる。

アイデア
 ・計画づくりには、地元の意見も聞いてほしい。(よく人が通るところだから枯れてしまう...など)
 ・時代に合わせて、小さくて素人でも管理しやすい樹木を優先的に植えたほうがよい

景観の方向性についてのアイデア
 (樹種の選び方、配置等)

<生の声・課題>

- ・古い公園では枯れ木が多くなっている。
- ・将来を見据えた計画(配置、間伐などの管理)が必要。
- ・公園の枯れ木を優先的に植え替える(質の向上)
- ・街路樹について、樹間を取る、樹種を選定、生長を考えて植栽、落葉樹・常緑樹など地域に合わせた樹種を選定、歩道の幅によって植栽を考える(落ち葉問題を解決。景観が良くなる)
- ・狭い場所に大きくなる木を植えると、管理が大変。1年に一度の剪定では強剪定するほかに、苦情が来たり、倒木の危険性も。
- ・寿命の短いサクラの更新について、別の樹種にするか、違うものにするか、どう合意形成するか？

合意形成についてのアイデア
 (どんな形なら参加しやすい?)

維持管理についてのアイデア
 (どんな活動なら参加できる?)

管理する前に

提案2 . 適切な剪定についての理解を広げる
 ~分かりやすい形(読み物や看板など)を工夫して、樹木の剪定や管理方法について知らせよう！~

予算等の問題で、どうしても伐採や強剪定が必要になる場所も出てくる。そうした時に、みどりの適切な管理について知ってもらうために周知方法を工夫したい。

例えば チラシや冊子での周知、現地見学会、看板での周知

<生の声・課題>

- ・強剪定すると苦情がくる...する方も心苦しい
- ・樹木剪定を適した時期、頻度で行いたい(強く切るにしてもやり方がある。もったいない)

アイデア

提案3 . 地域のみどりについて区と住民が情報共有ができる仕組みをつくる
 ~「どうしてこれを切ってしまったの?」という疑問やすれ違いをなくすために、コミュニケーションができる仕組みをつくらう！~

区だけでなく、区民も身近な公園樹木や街路樹の状況をチェックし、適切にみどりの管理をしていくために役立つ。また、会議や SNS などを用いて双方向に情報を共有することで、管理についてのすれ違いを減らす。

例えば 四半期ごとに町会やPTA単位で会議を行う/ねりまサポーターのようにネット活用

<生の声・課題>

- ・季節はずれに剪定し、花が咲かない。

アイデア

- ・地域のみどりの円卓会議を開き、情報・知識を共有。
公園、道ごとのみどりのリストをつくり、樹種や剪定方法についての円卓会議を行い、情報共有や意見交換を行うことで、うれしさを減らすことができるのではないか。
- ・寸胴剪定の木も、みんなでその後の成長を観察し、楽しめるみどりに。
- ・公園自主管理の仕組みを活用し、樹木の育成状況の見守り・報告も行う。

管理するときに

提案5 . 協働を進めていくためのルールや窓口体制をつくる
 ~「業者委託」ではなく、「協働」で公共のみどりの管理をしていくために、約束事や会議の仕方を工夫しよう！~

区民がより主体的に区の公園や道路の樹木管理に関われるよう、窓口体制や受け入れ方のルールづくりを行う。その際、区と区民で目指す方向がバラバラにならないか、ビジョンをいかに共有して役割分担できるかが重要。

例えば 最初に管理方針を双方で確認する/相互に管理方法などを提案しあえるように、定例会を行う

<生の声・課題>

- ・現状、区民が公園などのみどりの管理に携わりたいと思っても、区のほうでそれを受け入れる体制がない。

アイデア

緑化協力員の制度は、みどりに関わりたい、役に立ちたいと思う人が集まるにはとてもよい制度。ブラッシュアップをしていけいか。

提案4 . 区民と協働でみどりをこまめに管理する
 剪定講座なども開きながら、より区民がみどりの管理に関われるようにしよう！

育ちが早い樹木、中低木については区民に管理をまかせる。あわせて、区民でも剪定しやすい、あまり大きくならない木を植える。また、区の主催で、公園等の樹木を剪定する際の実践的な講習会を行い、管理を担う人に受けてもらう。また、枯れ木の補植も区民グループ等と協働できると、より多くの区民の参加につながる。

<生の声・課題>

- ・野放しにされているみどりが増えている
- ・季節はずれの剪定で花が咲かないと苦情がくることも

アイデア

- ・場所に合わせて、木を大きくしない剪定を取り入れられないか。
- ・区が依頼すると上から目線のように感じられてしまう。区民に呼びかけるには区民からの方が効果的。説明を根気強く。
- ・樹木の剪定について、樹種、剪定の時期、低木・中高木・高木による違い等を勉強する。y

公園や街路樹のみどりの質が高まる！